

令和4年8月10日発信

## 令和4年上半期道内卸売市場取扱実績などについて

### I. 令和4年上半期道内卸売市場取扱実績について

消費地市場の取扱高は、青果物が544億9,378万8千円で前年同期比7.6%増、水産物は628億3,617万1千円で8.0%増、花きは57億7,314万4千円7.3%増で、合計は、1,249億6,450万1千円で、前年同期の1,156億8,432万6千円から92億8,017万5千円、1.5%の増加となりました。

また、消費地市場の取扱数量は、青果物が18万1,107トンで前年同期比7.3%減、水産物が6万4,993トンで1.8%減、合計は、24万6,099トンで、前年同期の26万1,455トンから15,356トン、5.9%減少となり、花きは5,913万9千本鉢で、前年同期の6,176万6千本鉢に比べ262万7千本鉢、4.3%減となりました。

生産地市場は、取扱高が364億6,864万7千円で、前年同期の325億2,351万9千円から、39億4,512万8千円、12.1%の増加、取扱数量は16万7,662トンで、前年同期の18万545トンから、1万2,883トン、7.1%の減少となりました。

なお、水産部門の消費地、産地を合わせた総合計は、数量が23万2,655トン、前年同期比5.7%減、金額が993億481万8千円、9.5%増で、数量が減少したものの、金額は増加となりました。

令和4年上半期の道内卸売市場取扱実績の総合計は、1,614億3,314万8千円で、前年同期の1,482億784万5千円と比較して、132億2,530万3千円、8.9%の増加と、新型コロナウイルス感染症による影響などもありましたが前年同期を上回る状況となりました。

下半期については、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、インフレ圧力による消費動向への影響、原油や天然ガスなどエネルギー価格のさらなる高騰といった懸念材料もあり、引き続き楽観視できない経済情勢が予想されるところです。

なお、データを協会ホームページの卸売市場情報に掲載しています。

## Ⅱ. 今後の法改正等への対応について

国においては、生鮮食料品等の流通などに関する新たな施策の実施・検討が相次いでおり、卸売市場の運営上への影響も心配されるところです。

### 1 適格請求書（インボイス）等保存方式（国税庁）

複数税率に対応した消費税の仕入税額控除の方式として適格請求書等保存方式が導入、税務署長に申請して登録を受けた課税事業者である「適格請求書発行事業者」が交付する「適格請求書（インボイス）」等の保存が仕入税額控除の対象となる。（令和5年10月1日施行）

### 2 水産流通適正化法（水産庁加工流通課）

「アワビ」、「ナマコ」などの第一種特定水産動植物を取り扱う（今後の取扱い予定を含む）卸売事業者等の国への登録制や取扱水産物へのいわゆる「背番号制」（漁獲番号又は荷口番号）の適用など。（令和4年12月1日施行）

### 3 青果物流通の標準化（農林水産省食品流通課）

国の「青果物物流標準化検討会」において、輸送用パレットの全国標準規格化や納品伝票等の電子化など、青果物流通の標準化ガイドラインを検討中。（現在のところ、実施時期や法制化の見込み等は未定）

### 4 花き流通の標準化（農林水産省食品流通課）

国では、青果物と同様に花きの流通標準化の検討に向け、令和4年7月27日に検討会を設置、今後、標準化ガイドラインの本格的検討に着手。

こうした国の動きに対応するため、協会としては、国（水産庁）、北海道（経済部、水産林務部）との共同で水産流通適正化法に関する説明会を令和4年7月26日に札幌市において開催したところであり、今後とも役職員研修会や各部会、管理・総務部門担当役員会議など、あらゆる機会を通じて適時的確な情報提供や研究・研修の場の提供に努めていくこととしています。

### Ⅲ. せり人資格認定学科試験について

今年度のせり人の資格認定試験（学科・実地）につきましては、令和4年度定時総会において決定のとおり、新型コロナウイルスの感染症対策の観点から、各卸売市場での実施としており、6月7日（火）から7月31日（日）までの間に、各市場において学科試験が執り行われました。

関係市場の皆様には、ご協力を頂きましたことに改めてお礼申し上げます。

#### 【せり人学科試験実施状況】

12市場で実施、受験者数22名、合格者数22名

※今回お送りした提供情報につきましては、第3回理事会（書面開催）においても、報告しております。